
小さな世界

柳原史弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな世界

【コード】

N8239N

【作者名】

柳原史弥

【あらすじ】

涙の中に広がる小さな世界。僕達の世界も……

「人はね、世界を創造するために涙を流すんだよ」

僕が大好きで尊敬していた先生は、命を終えるその時にそう僕に言い残した。

僕はその言葉を理解することができなかった。けれども、涙は自然と溢れてきた。

宇宙が始まり、星が、銀河が創られ、最後は全てが弾け飛ぶ。僕は、そんな光景を一粒の涙の中に見た。

涙の粒が落下し、弾け飛んでしまふまではほんの一瞬のことだ。

だけど、僕は確かに見たのだ。先生が言っていたのはこのことだったのだ。

きっと先生も昔、僕と同じ光景を見たのだろう。だからと言って、人がそのために涙を流すのだ、とは言えないと僕は思う。でも、先生はロマンチストだったから……僕の目からはまた涙が溢れ出した。

「世界は儂いなあ」

僕も先生に負けないくらいにロマンチストだったようだ。自分が今いる世界が、パチン、と弾け飛ぶ瞬間にそう思ったのだから。

どうやら、僕が今いる世界も誰かが流した涙の中にある世界だったようだ。

僕は崩れていく空を見ながら、大声で叫んだ。

「どうして泣いているんだい！ 大切な人がいなくなってしまったのかな？ でも、命とは、世界とは儂いものなんだよ。だって君がいる世界もまた、誰かが流した涙の中にある小さな世界かもしれないのだから！」

(後書き)

『根に持つ女』同様、昔書いたものに手直しを加えてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8239n/>

小さな世界

2011年10月7日06時25分発行